

南米[ブラジル]



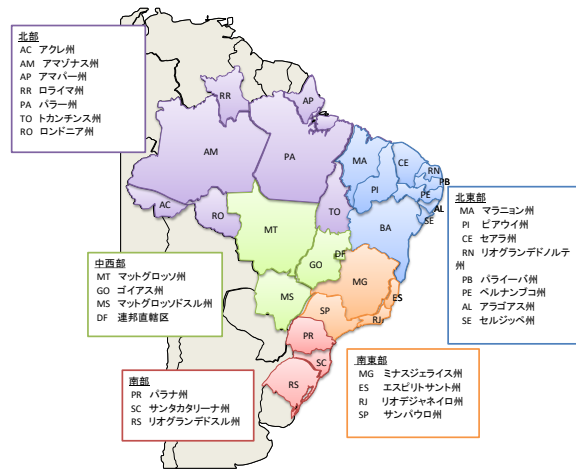
1 農・畜産業の概況

ブラジル政府の農牧センサス（2017年）によると、農業経営体507万戸の所有面積は3億5030万ヘクタールで、このうち農耕地が6340万ヘクタール、牧草が1億5860万ヘクタールとなる（図1、表1）。ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）によると、2016/17年度（10月～翌9月）には、6089万ヘクタールが穀物生産に向けられ、生産量は2億3767万トン（前年度比27.4%増）となった。

畜産分野では、2017年の牛肉および鶏肉生産量はともに米国に次ぐ世界第2位となった。また、豚肉生産量は中国、EU（28カ国）、米国に次ぐ第4位となった。輸出量は牛肉、鶏肉が第1位、豚肉が第4位となった。

2017年の農産物（農畜産物、林産物および水産物）輸出額は、960億米ドル（前年比13.0%増）となった。また、同年の農産物輸入額を差し引いた農産物の貿易黒字は819億米ドルとなり、農業部門が国の貿易収支に重要な役割を果たしている。

図1 ブラジルの行政区分



資料：ブラジル地理統計院（IBGE）のデータを基に機構作成

表1 農場面積と農場数の推移

（単位：千戸、千ha）

	1975	1980	1985	1996	2006	2017
農場数	4,993	5,160	5,802	4,860	5,176	5,072
農場面積	323,896	364,854	374,925	353,611	333,680	350,253

資料：ブラジル地理統計院（IBGE）

2 畜産の動向

（1）肉牛・牛肉産業

ブラジルの肉牛生産は、広大な牧草地を利用した放牧が中心で、耐暑性に優れたゼブー系ネローレ種が主に飼養されている。近年は、穀物生産が増加し、放牧面積が減少傾向にあることから、仕上げ期に穀物を給与するフィードロットによる飼養管理も拡大している。

また、ブラジルでは、長年、口蹄疫対策に取り組んだ結果、2007年に、南部のサンタカタリーナ州が、国際獣疫事務局（OIE）より同国初のワクチン非接

種清浄地域のステータスを取得した。その他の地域は、ワクチン接種清浄地域となっている（2019年10月現在）。ブラジル農牧食糧供給省（MAPA）によると、将来的には、2023年までに、ブラジル全土で口蹄疫ワクチン非接種清浄地域を目指すとしている。また、BSEについては、2012年、2014年に高齢牛のBSEが確認されたものの、2019年10月時点ではOIEより「無視できるリスク」と評価されている。

① 飼養動向

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2017年の牛飼養頭数は、2億1500万頭（前年比1.5%減）となった（図2）。州別に見ると、前年に引き続きマットグロッソ州が最も多く、次いでゴイアス州、ミナスジェライス州、マットグロッソドスル州、パラ州と続いた。従来は、大消費地を含む南東部を中心に飼養されていたが、需要の高まりを受け、地価が安く広大な中西部での飼養が拡大している（図3）。

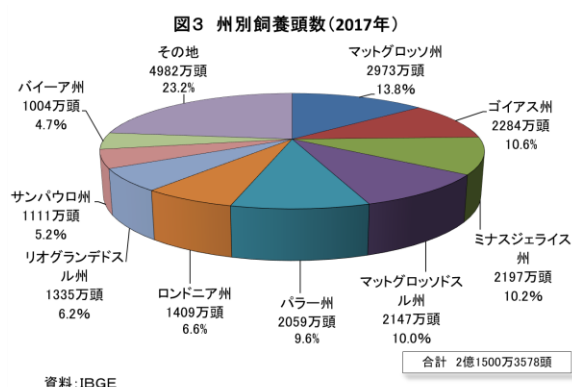
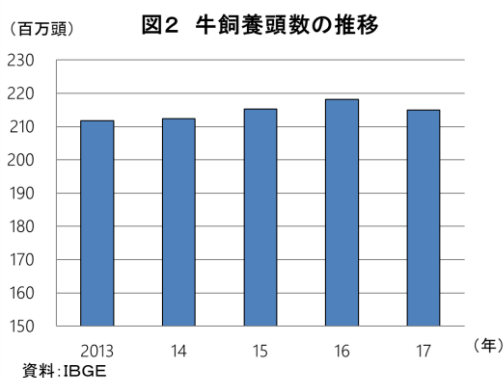


写真1 ゴイアス州の放牧風景（2014年9月撮影）

イ 輸出

ブラジル開発商工省貿易局（SECEX）によると、2017年の牛肉輸出量（製品重量ベース）は、120万6367トン（前年比12.1%増）となった（表2）。

食肉不正問題^{（注）}の影響で、4月は前年同月比19.0%減と大幅に減少したが、その後は回復を続け、11月には同53.2%増を記録するなど、著しい伸びを見せた。この輸出増を支えたのは、アジアや中東の旺盛な需要であり、中でも2012年のBSE（非定型）確認以降停止していた中国向けは、2015年6月の輸出再開以降、著しい伸びを見せており、2017年の同国向け輸出量は前年比28.2%増の21万1241トンとエジプトを抜いて第2位となった。

（注）2017年3月、一部の食肉加工場が衛生基準を満たさない食肉等を国内外へ販売していたことが発覚した。

② 牛肉の需給動向

ア 生産

国農務省（USDA）によると、ブラジルの2017年の牛と畜頭数は3872万頭（前年比3.0%増）、牛肉生産量は955万トン（同2.9%増、枝肉重量ベース）となった。ブラジルのキャトルサイクルは、約7年周期で増減を繰り返すとされているが、2016年にはその減少期の底に当たったことから2017年は増加期に転じた。加えて、国内経済の回復により牛肉需要が増加したことも要因の一つとされている。

表2 国別冷蔵・冷凍牛肉輸出

区分	2017年			前年同期比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
香港	247,240	1,021,413	4,131	36.4	42.2	4.3
中国	211,241	928,985	4,398	28.2	32.2	3.1
エジプト	146,893	519,063	3,534	▲10.9	▲1.7	10.3
ロシア	138,000	452,264	3,277	5.7	16.0	9.8
イラン	133,193	559,718	4,202	38.5	49.6	8.0
チリ	64,367	279,413	4,341	▲8.2	▲5.6	2.8
サウジアラビア	41,286	165,783	4,015	44.1	49.9	4.0
その他	224,147	1,143,251	5,100	▲6.4	▲6.7	▲0.2
合計	1,206,367	5,069,891	4,203	12.1	16.7	4.1

資料: SECEX

注: HSコード0201(冷蔵牛肉)、0202(冷凍牛肉)の合計。

ウ 消費

USDAによると、2017年の牛肉の国内消費量は、775万トン（前年比1.3%増）となった（表3）。消費量は、国内経済が回復したことから、前年をわずかに上回った。

表3 牛肉需給の推移
（単位：千トン、kg）

	2013	2014	2015	2016	2017
生産量	9,675	9,723	9,425	9,284	9,550
輸入量	59	82	61	66	56
消費量	7,885	7,896	7,781	7,652	7,750
輸出量	1,849	1,909	1,705	1,698	1,856

資料：USDA

注1：枝肉重量ベース。

注2：出典が異なるため、表2と数値は異なる。

（2）養鶏・鶏肉産業

ブラジルの養鶏・鶏肉生産は穀物生産が盛んな南部や中西部で主に行われており、インテグレーションも進展している。同国内の鶏肉生産は、第1位のBRF社と、第2位である世界最大級の食肉企業のJBS社、第3位である農協系最大のパッカーのAURORA社がけん引している。

また、飼料コストが他国に比べて低く優位性があることに加え、鳥インフルエンザが今まで発生したことがなく安定した供給が見込まれることから世界最大の輸出国となっている。

① ブロイラーの需給動向

ア 生産動向

CONABによると、2017年のブロイラー用ひなふ化羽数は、62億600万羽（前年比3.7%減）、鶏肉生産量は、1361万2000トン（同0.7%増）となった（表4）。国内経済の回復により、国内需要の増加が生産を後押しした要因とみられる。

表4 鶏肉需給の推移
（単位：百万羽、千トン、kg）

	2013	2014	2015	2016	2017
ひなふ化羽数	6,139	6,226	6,501	6,445	6,206
生産量	12,663	12,946	13,547	13,524	13,612
輸出量	3,892	3,995	4,225	4,307	4,232
1人当たり消費量	43.6	44.1	45.6	44.7	45.2

資料：CONAB

注：輸出量は生鮮鶏肉のほか、鶏肉調製品などを含む。

イ 輸出

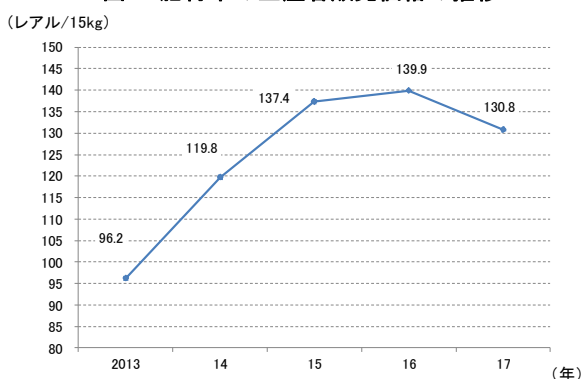
SECEXによると、2017年の鶏肉輸出量は、394万4215トン（前年比0.4%減）と過去最高を記録した前年をわずかに下回った（表5）。食肉不正問題の影響により、上半期（1～6月）は、前年同期比6.6%減の192万4090トンと減少したものの、下半期（7～12月）は、同6.4%増の202万125トンと回復したため、通年ではわずかな減少に留まった。

最大の輸出先であるサウジアラビア向けは、生産量

③ 牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体15キログラム（1アローバ）単位で示される。2017年の肥育牛の平均価格（マットグロッソドスル州カンポグランジ市場）は、1アローバ（15キログラム）当たり130.8リアル（前年比6.5%安）であった（図4）。牛肉小売価格（ランプ）は、1キログラム当たり27.9リアル（同0.4%安）となった。

図4 肥育牛の生産者販売価格の推移



資料：CONAB

の回復や2017年1月からの輸入鶏肉関税の引き上げ、輸出量を伸ばしたエジプトとの競合により、58万9212トン（同20.9%減）と前年を大幅に下回った。第2位の日本向けは底堅い需要を背景に43万7569トン（同11.6%増）となった。また、第3位は中国で39万1037トン（同19.1%減）となった。

表5 国別鶏肉輸出(2017年)

区分	2017年			前年比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 米ドル/トン	輸出量	輸出額	単価
サウジアラビア	589,212	1,006,212	1,708	▲ 20.9	▲ 12.7	10.3
日本	437,569	907,263	2,073	▲ 11.6	26.0	12.9
中国	391,037	760,573	1,945	▲ 19.1	▲ 11.5	9.5
南アフリカ	343,877	255,238	742	55.2	160.5	67.8
アラブ首長国連邦	299,878	516,313	1,722	▲ 0.4	8.1	8.6
香港	250,144	393,418	1,573	0.6	10.1	9.4
エジプト	162,775	224,215	1,377	67.5	59.9	▲ 4.5
その他	1,469,723	2,364,664	1,609	▲ 0.0	10.5	10.5
合計	3,944,215	6,427,896	1,630	▲ 0.4	8.1	8.5

資料: SECEX

注 1: HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

2: 輸出量は製品重量ベース。

3: 出典が異なるため、表4と数値は異なる。。

ウ 消費

CONABによると、2017年の1人当たり年間鶏肉消費量は、45.2キログラム（前年比1.1%増）となった（表4）。国内経済の失速に伴って、価格の高い牛肉からのシフトが進んだ結果、2014年、2015年と2年連続で増加していた。2016年は安価な鶏肉でさえも消費量が減少することとなったが、国内経済が回復したことから需要が戻り、消費量が増加することとなった。

②ブロイラーの価格動向

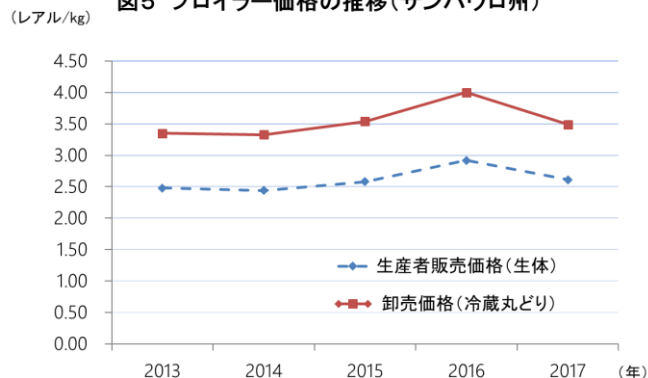
ア 生産者販売価格

CONABによると、2017年のブロイラーの生産者販売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり2.61リアル（前年比10.6%安）となった（図5）。

イ 卸売価格

2017年の冷蔵丸どりの卸売価格（同）は、鶏肉の引き合いが弱まり、同3.49リアル（同12.8%安）となった。

図5 ブロイラー価格の推移(サンパウロ州)



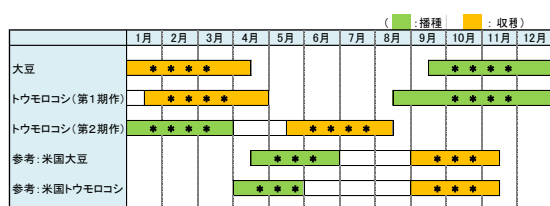
資料: CONAB

3 飼料穀物

ブラジルの2017/18年度（3月～翌2月）のトウモロコシの生産量は世界第3位、2017/18年度（10月～翌9月）の輸出量は第2位であった。

ブラジルのトウモロコシの作付けは、夏作（第1作）と冬作（第2作）の年2回行われる（図6）。2017/18年度（10月～翌9月）の第1作はミナスジェライス州（南東部）、第2作はマットグロッソ州（中西部）が最大の生産地となった。パラナ州をはじめ伝統的に生産が盛んな南部3州のシェアは生産量ベースで23.8%を占めた。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部（マットグロッソ州、マットグロッソドスル州、ゴイアス州、連邦直轄区）は、同51.4%となった。

図6 ブラジルの大豆・トウモロコシの生育カレンダー



資料: CONAB、米国農務省(USDA)
注: 主要生産州の播種および収穫期に基づいて作成。*印は、各月を前半と後半に分けて、最も盛んな時期を示している。

① 主要な政策

2017/18年度（会計年度7月～翌6月）は、MAPAが管轄する農業部門に対し、過去最大規模となった前年をわずかに上回る1884億リアル（前年度比2.5%増）が予算措置された（表6）。

この予算は、穀物生産の拡大と環境保全を柱に、食糧の安定的確保や生産者の生産能力・競争力強化などを目的とした融資に向けられる。

表6 農業部門予算の推移

(単位: 億リアル)

農業年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18
総予算額	1,360	1,561	1,877	1,838	1,884
営農・販売融資	973	1,120	1,495	1,498	1,503
投資融資	384	441	382	340	381

資料: MAPA

営農・販売融資については、1503億リアル（同0.3%増）の予算が措置された。営農融資は農畜産物

の生産や加工に係る経費を対象としている。また、販売融資は連邦政府が定める農畜産物の最低価格を基礎として農畜産物を担保に行われる。同予算のうち、180億リアルは、重要課題として継続実施されている中規模農業者支援国家プログラム(PRONAMP)に増額措置された。

投資融資については、381億リアルの予算が措置された。同融資には、温室効果ガスの削減を図り持続的農業を拡大する低炭素排出型農業プログラム(ABC)が含まれ、政府系のブラジル銀行や国立社会経済開発銀行(BNDES)が融資を行う。ABCについては、21億3000万リアルの予算が措置され、金利は年利7.5%に設定された。同プログラムでは、有機農業プログラムへの適応、牧草地の回復、農業・畜産・森林を一体として推し進めるブラジル独自のインテグレーションシステムの導入などを奨励している。

② 飼料穀物の需給動向

2017/18年度（10月～翌9月）のトウモロコシ生産量は、8071万トン（前年度比17.5%減）と過去最高を記録した前年を大幅に下回ることとなった（表7）。

このうち、第1作は、前年度の記録的な豊作により、作付期にトウモロコシ価格が下落していたことで、作付けを大豆にシフトした生産者が増えたことに加え、単収が豊作だった前年度と比較してかなり減少したため、同12.0%減の2681万トンとなった。第2作についても、第1作と同様に同20.0%減の5390万トンとなった。

また、同年度の輸出量は、前述のとおり生産量が大幅に減少したことから、2382万トン（同22.8%減）と大きく減少した。国内では6005万トン（同5.0%増）が消費され、1561万トンが期末在庫として次年度に繰り越された。

表7 トウモロコシ需給の推移

(単位:千トン)

区分	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18
期首在庫	6,497	12,221	11,122	7,134	17,866
生産量	80,052	84,672	66,531	97,843	80,710
輸入量	791	316	3,338	954	902
消費量	54,193	55,813	54,960	57,213	60,052
輸出量	20,925	30,172	18,897	30,851	23,820
期末在庫	12,221	11,225	7,134	17,866	15,605

資料: CONAB

2017/18年度(10月~翌9月)の大豆の生産量は、過去最高となる前年度比4.6%増の1億1928万トンとなった(表8)。主産地で、良好な天候であったことなどが要因としてあげられる。

作付面積については前年度3.7%増の3515万ヘクタールとなった。

なお、同年度の輸出量は8326万トン(同22.2%増)で、国内では4260万トン(同2.7%減)が消費され、期末在庫は139万トンとなった。

表8 大豆需給の推移

(単位:千トン)

区分	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18
期首在庫	1,535	2,943	2,671	5,405	7,780
生産量	86,121	96,228	95,435	114,075	119,282
輸入量	579	324	382	254	187
消費量	39,600	42,500	41,500	43,800	42,600
輸出量	45,692	54,324	51,582	68,155	83,258
期末在庫	2,943	2,671	5,405	7,780	1,391

資料: CONAB

③ 飼料穀物の価格動向

2017年のトウモロコシ生産者価格(サンパウロ州)は、前年に過去最高の生産量を記録したことから、60キログラム当たり26.36リアル(前年比28.4%安)と下落した(表9)。

また、同年の大豆生産者価格も、過去最高の生産量を記録したことから、同62.9リアル(同13.6%安)となった(表10)。

表9 トウモロコシ生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分	2013	2014	2015	2016	2017
生産者販売価格	24.1	23.8	24.5	36.8	26.4

資料: CONAB

表10 大豆生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分	2013	2014	2015	2016	2017
生産者販売価格	58.4	60.5	62.5	72.8	62.9

資料: CONAB